

川あそび



第 116 号

2023 年 3 月
日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>

三重県南部で越冬するオオセッカ



長野県 西 教生

オオセッカは、「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年)によると、青森県・秋田県・茨城県・千葉県で繁殖し、栃木県と宮城県で繁殖記録があるとされています。生息環境は河川敷や湖岸、放棄水田などの湿性草原やヨシ原です(高橋2013)。2003年発行のStrixにはオオセッカの特集がありますし、関東地方での越冬状況の論文はインターネット上で見られますので、興味のあるかたは検索してみてください。

私は、2004年から三重県でも鳥類標識調査を実施しています。鳥類標識調査は河川敷やアシ原を調査地とし、おもに小型の渡り鳥を対象にすることがほとんどです。アシ原は渡りの個体が利用するほか、ホオジロ類やアトリ類、タヒバリやクイナ類なども越冬地やねぐらとして利用しています。

この調査の関連で、三重県南部でオオセッカが越冬していることを確認しました。今回はその過程を紹介したいと思います。

2007年から紀北町で調査をしていたのですが、調査地に高速道路のICが造られることになりました。工事にともないアシ原が徐々に狭くなり、捕獲数も減ってきました。そのため、別の場所を探しながら南下しました。国道から外れた御浜町の河川敷と休耕田が目に入りました。せっかく見つけた調査地は長く調査を実施したいため、入念に下見をします。ここなら良さそうだと判断したのは2011年11月でした。2011年12月には1回目の調査を開始し、ムジセッカが確認されました。

2012年11月中旬の調査時に、アシ原の地上近くを鳴きながら移動しているオオセッカを見つけました。オオセッカは、翌月の12月下旬にも同所で2羽確認できました。オオセッカは国内希少野生動物種であるため、通常の捕獲許可証以外に、種の保存法の申請も必要です。生息状況

目次

三重県南部で越冬するオオセッカ	2
表紙の言葉	2
三峰山と平倉峰	4
松ヶ崎小学校、香肌小学校交流会	5
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第31回 セイタカシギ—	6
ほのぼの鳥さん Watching 一夜の鳥見	12
鳥インフルエンザの猛威	14
野鳥観察・撮影マナーを考える	15
野鳥記録	16
アオシギ	20
事務局だより	20
探鳥会報告(2022年11月~2023年1月)	21
2023年、ガンカモ調査無事終了	24
編集後記	24

表紙の言葉

バンの親子

名張市 田中 豊成

どんな鳥達も同じですが、繁殖期に巣立った新しい命の雛達と偶然に出会えることがあり、いつも嬉しく感じます。皆が無事に育ってくれと思うのですが、鳥なのでちゃんと育ったかを確認はできません。例外として、バンやカイツブリ等は同じ池で雛が大きく育つから分かります。

5年前に、名張の住宅地のとある池でバンが営巣をして、7羽の雛が見られました。親鳥の、毎日雛達にかいがいしく餌を与える姿には、感動を覚えます。それから約1年半後になると、親鳥と同じくらい大きくなった雛の数は2羽にまで減ってしまいました。雛達を捕食したのは何者であるのかを確認はできなかったのですが、自然の中で生きるのには実に厳しいものですね。



標識放鳥されたオオセッカ (2015年11月28日)

を長期的にモニタリングするためには、足環を使った個体識別が求められます。そこで、各種手続きをおこない、2013年11～12月に3羽のオオセッカを標識放鳥しました(西2014)。11月中旬に捕獲した個体をその年の12月下旬にも確認できたことから、越冬しているものと思われました。

オオセッカは何月ごろに御浜町で見られるのかを調べるため、2014年は5月上旬、11月上旬、12月下旬、2015年は3月下旬、5月上旬、11月下旬、2016年は4月上旬に調査を実施しました。その結果、オオセッカは11月中旬から4月上旬にかけて生息することがわかりました。この調査期間にすべての個体を標識し、追跡したわけではありませんので、個体の入れ替わりはあるかもしれません。たとえば3月下旬から4月上旬は、繁殖地への移動中の個体が混ざっている可能性もあります。3月下旬から4月上旬には、おもに夕方にさえずりがよく聞かれ、2016年4月は最大6羽のさえずりを確認しました。よくさえずる時期でも、繁殖地のように飛翔しながらのさえずりは見られませんでした。

標識放鳥した個体の再捕獲は3例あります。3例とも捕獲した場所とほとんど同じところで再捕獲されており、2013年11月中旬に放鳥した個体が、同年12月下旬に再捕獲されました。2014年12月下旬に放鳥した個体が、2015年3月下旬と同年11月下旬に再捕獲されています。

ところで、三重県で越冬するオオセッカの繁殖地はどこなのでしょう。オオセッカの繁殖地は限られていると思いますので、いつか放鳥個体が繁殖地で確認されるか、繁殖地で放鳥された個体を三重県で確認できればと楽しみにしています。三重県から一番近い繁殖地は、利根川周辺のようなようです。

2021年12月29日も、御浜町でオオセッカを確認することができました。少なくとも、10年以上もオオセッカが越冬していることとなります。オオセッカやムジセッカ、ヒクイナが越冬するこのようなアシ原は、太陽光発電施設の建設や宅地等として開発されやすい環境でもあります。アシ原は生産性のない環境と考えられるかもしれませんが、希少種の生息する場所でもあります。このアシ原にはハマナツメも分布しており、ウズラやコミミズクを見たこともあります。三重県南部に残る希少種のホットスポットとして捉え、この環境を残せるように尽力したいと思っています。

三重県のオオセッカの越冬地は、今後も調査をすることで増える可能性があります。私は南部方面に調査を展開しましたが、中部の沿岸部のアシ原などには、オオセッカが生息しているようです。オオセッカの調査は普通、音声をプレイバックして、その反応を調べます。調査方法は高橋ほか(2017)に詳しく紹介されています。ご自宅の近くにアシ原があるかたは、オオセッカの生息調査をしてみてください。



アシ原の調査地

引用文献

- 日本鳥学会(2012)日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会.
- 高橋雅雄(2013)オオセッカ. バードリサーチ 生態図鑑.
- 西 教生(2014)三重県からのオオセッカ *Locustella pryeri* の初標識記録および越冬の可能性. 日本鳥類標識協会誌 26: 69-74.
- 高橋雅雄ほか(2017)千葉県および利根川下流域におけるオオセッカ *Locustella pryeri* の越冬状況. 日本鳥類標識協会誌 29: 85-94.

三峰山と平倉峰



志摩市 濱屋 勝則

今回は第7回目の山行記録をお送りします

【日付】 2022年12月18日(日曜日)

【天候】 曇りのち晴れ

【登った山】 三重、奈良県境 三峰山と平倉峰

【登山ルートと経路】

7:45 御杖村、三峰山登山者専用駐車場スタート

7:58 三峰山登山ルート分岐登山口着

10:09 三畝峠通過

10:40 八丁平着

11:00 三峰山山頂着

12:11 平倉峰着

13:55 三峰山山頂着(複路戻)

14:08 三畝峠通過(複路戻)

15:25 三峰山登山ルート分岐登山口着(複路戻)

15:40 三峰山登山者専用駐車場ゴール

活動時間 約8時間

【山歩きの中で鳴き声や姿を見られた野鳥達】

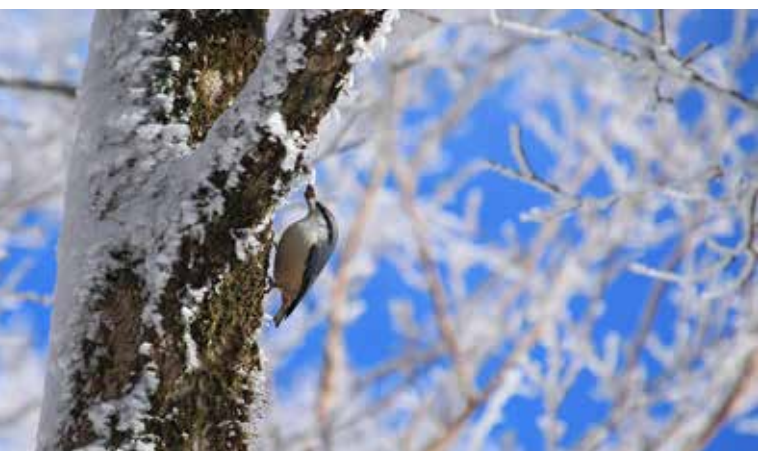
コゲラ、カケス、コガラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、エナガ、
カワガラス、ハクセキレイ、ゴジュウカラ 計9種



八丁平



平倉峰



ゴジュウカラ



コガラ

今回は冬の三峰山と平倉峰を歩いて来ました。歩き始める頃は空には灰色の雲が覆っていましたが登山道を登っていくに従い青空が見え出し山頂近くに差し掛かる辺りでは見事に晴れてくれました。青空の下シロヤシオツツジの枝に着いた霧氷がキラキラと輝き綺麗でした。しかしながら天気予報で伝えられていた風の強さにより時折吹き付ける冷たい風に頬はこわ張りしました。山頂から次に向かう平倉峰への道中ではカラ類のコガラやゴジュウカラの姿を良く見かけました。

松ヶ崎小学校、香肌小学校交流会



松阪市 中村 真理子

1/26 (木)、今年で6回目となる松ヶ崎小学校と香肌小学校の交流会が行われ、松阪地区から会員4名、鳥の観察のお手伝いをさせていただきました。飯高からスクールバスで香肌小学校の生徒さん7名が到着。迎える松ヶ崎小は12名、いずれも5、6年生。元気いっぱい挨拶してくれます。今回も地域の方々によっていただいたあおさ汁をご馳走になりました。お腹が温まったところでいよいよ鳥見です。



鳥見に出発！

前回は強風のため、海側に出ることができず堤防内の船着き場でヒドリガモとオオバンを見て終わりだったのですが、今回は好天に恵まれました。双眼鏡の説明が終わってすぐ、校内の畑にフレンドリーなツグミが大サービスで行ったり来たりしてくれています。ツグミで双眼鏡の使い方のコツを掴んだところで、さあ！海に出発です！！



海へ向かいます

三渡川河口はカモがたくさんいます。でもカモのようでカモじゃない真っ黒で白いくちばしの鳥がいます。私達にはお馴染みのオオバンですが、子供たちの目にはかなりのインパクトで飛び込んできたようで『あの黒いのは何!?』『泳ぎ方がかわいい』『もっとオオバンを観察したい!!』最終的に『オオバン家で飼いたい!!』とまさかのオオバン大人気。

少し歩いて漁港に到着。ユリカモメが沖に白く浮いています。防波堤にはカモやカワウやユリカモメが羽を休めています。その姿をスコープも自分で操作してじっくり観察します。その間も松ヶ崎小の生徒さんと香肌小の生徒さんが楽しそうに話している姿がとても微笑ましく、今後もこの交流会が続けばいいなと思いました。



スコープを操作して観察